

令和2年度～令和4年度 第3期少子化対策プロジェクト報告

～第4期少子化対策プロジェクト（R5～R7）へ向けて～



南部町子育て支援課

内容

- (1) 第3期少子化対策プロジェクトの概要
- (2) 効果の検証と総括
- (3) 第4期少子化対策プロジェクト（R5~R7）
へ向けて

令和2年度～令和4年度

第3期少子化対策プロジェクト

事業費 約3億193万円 (R2~R4)



◆ 結婚支援

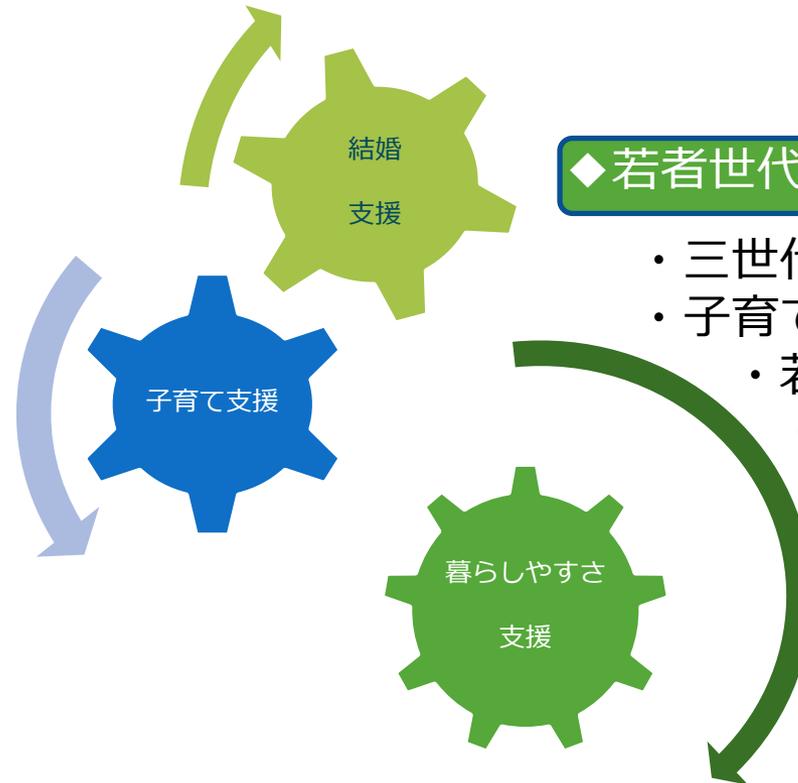
- ・結婚支援事業

◆ 出産・子育て支援

- ・子育て包括支援センター
- ・一時保育事業の充実
- ・病児病後児保育の充実
- ・保育料の町独自軽減
- ・子育て応援事業の実施
- ・高校等通学定期券の補助
- ・誕生祝い事業等

◆ 若者世代の暮らしを支援

- ・三世帯同居への支援
- ・子育て世帯の定住応援
 - ・若者向け住宅建設
 - ・定住促進奨励金
 - ・青年団の活性化



「結婚支援」「出産・子育て支援」「若者世代の暮らしやすさ支援」の3本の柱により、少子化対策事業を充実。



結婚支援

(事業費 約134万円)



事業名	実績 (R2-R4)	
結婚支援事業	○独身者対象 ・好感度向上セミナー 2回 ・出会いの会 6回 開催 参加者：男性38名女性35名 マッチング数19組 ○結婚新生活引越支援金支給事業(R4～)	133万円
ライフデザイン事業	高校生など若い時から自分の人生を作り上げるイメージを学ぶ講座を開催 ・R3.3講演会開催	1万円
結婚記念証交付事業	南部町で結婚届を出した新婚世帯に結婚祝いとして結婚記念証を交付 ・計25組に交付	60円

出産・子育て支援 ①

(事業費 約2億2,577万円)

事業名	実績 (R2-R4)	事業費
保育料軽減事業	園児延194名に軽減	1,644万円
誕生祝い事業	156名に贈呈	790万円
特別医療費助成事業	延4,342名が利用	9,011万円
病児病後児保育事業	延453名が利用	449万円
一時保育事業	延36名が利用	1,024万円
子育て応援事業	パパスクール 延92名 スタンプラリー事業 延244名 子育て応援認定企業 30社	10万円 31万円
在宅育児世帯支援 給付金	延53名に現金給付 (月3万円)	1,404万円
子育て包括支援センター	ネウボラ運営	2,819万円
育児パッケージ事業	延128名が利用	275万円
ファミリーサポート事業	延2件が利用	107万円

出産・子育て支援 ②

(事業費 約2億2,577万円)



事業名	実績 (R2-R4)	事業費
チャイルドシート 購入費補助	102名に補助	98万円
不妊治療費助成事業	特定不妊治療 延33件 人工授精 延14件に助成	239万円
通学定期券補助	高校生 延1,059名に補助	1,040万円
進学奨励金	高校生・大学生・専修学校生 延1,054名に交付	1,147万円
教材費補助 学級費補助	小1~小3 延708名に補助 小学生 延1,500名に補助	918万円
学校給食費軽減	小中学生 延2,302名に補助	1,426万円
子育て親育ち 成長と学びのファイル	妊娠届出時、転入時等に進呈 約 1100部	73万円
産後ケア事業	母子 8組が利用	72万円



暮らしやすさ支援

(事業費 約7,482万円)

事業名	実績 (R2-R4)	事業費
若者向け住宅	10世帯28人が入居	1,629万円
三世代同居等支援	28件の助成 (内14件が転入)	1,622万円
定住促進対策事業	定住促進奨励金を延222件に助成	1,592万円
子育て世帯等応援 定住促進奨励金	新婚・子育て世帯に賃貸住宅の 家賃助成を延23件に実施	607万円
空き家一括借上げ	9戸が入居 (R2-R3)	84万円
起業促進奨励事業	21件に助成 19件×50万 (R2-R3) 2件×30万	1,010万円
企業誘致事業	企業6社 30名に助成 30名×30万 (R2-R3)	900万円
青年団活動活性化 事業	18歳以上39歳未満の本町在住もしくは 町内勤務の青年が対象 団員数 68名	38万円

第3期少子化対策プロジェクト 支援 3 本柱のまとめ

【1】結婚支援

(成果)

- 出会いの場となり、マッチング数は増えた。

(課題等)

- マッチング後のサポート制度がなく、成婚実績の把握が困難であり、マッチングの成果が見えない。

(今後の方向性)

- 県の運営するマッチングシステム「えんトリー」の登録・更新料を全額負担する。
- 結婚新生活引越支援金の支給対象者の所得要件を緩和する。
- 結婚後に町内に住んでもらえるように宅地造成や空き家対策が必要。

【2】 出産・子育て支援

(成果)

- 子育て包括支援センターネウボラなど、ソフト面や経済的支援が充実した。

(課題等)

- 保護者の子育てニーズは「経済的支援」「子どもの遊び場」「子どもを預ける場所」についてのものが多い。

(今後の方向性)

- 子育て世代のニーズに応えられるよう、子育て施策の有効なPRの方法を検討する。
- 第2期子どもの広場の整備や既存の公園の環境整備イベント等を行う。

【3】若者世代の暮らしやすさ支援 (成果)

- 空き家活用や集合住宅の誘致、アパート供給ができ転出防止に繋がった。
- 青年団活動が活発化した。

(課題等)

- 若者世代の転出。
- 一人向け住宅、アパートが少ない。
- 若者向け住宅退去後に住む家が不足している。

(今後の方向性)

- 新たな転入者、再転入者を呼び込み、移住から定住に繋げるための丁寧な宅地造成が期待される。

効果の検証

【現況】 令和5年の小学校入学者数は出生時の数を上回っている。

【理由】 ○移住定住政策、子育て施策により、若い世代の転入者が増え、出生数より小学校入学者数が上回った。

目標値に対する現況

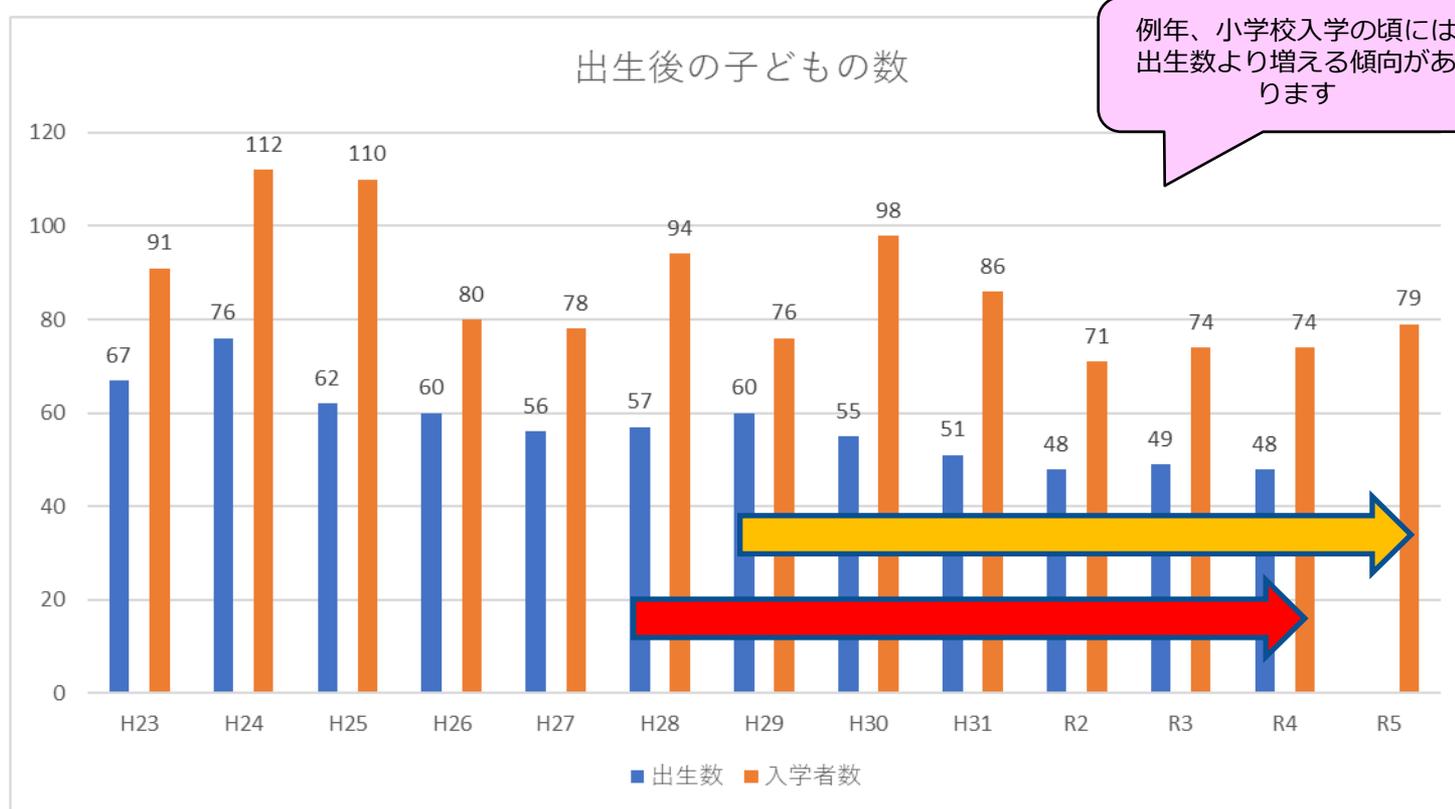
・ 現況 (参考)	R5の小学校入学者数79人 (H29出生数より+19人) <u>R4の年間出生数48人</u> (H29出生数60人から△12人) <u>R3の合計特殊出生率1.25人</u> (H29出生率1.24人から+0.01)
--------------	--

出生後の子どもの数

※鳥取県人口動態統計による各年度の出生数と小学校入学者数の比較

出生数は50人前後を推移しており、小学校に入学する前後には、出生数よりも増加している。（H28出生→R4入学、H29出生→R5入学）

南部町

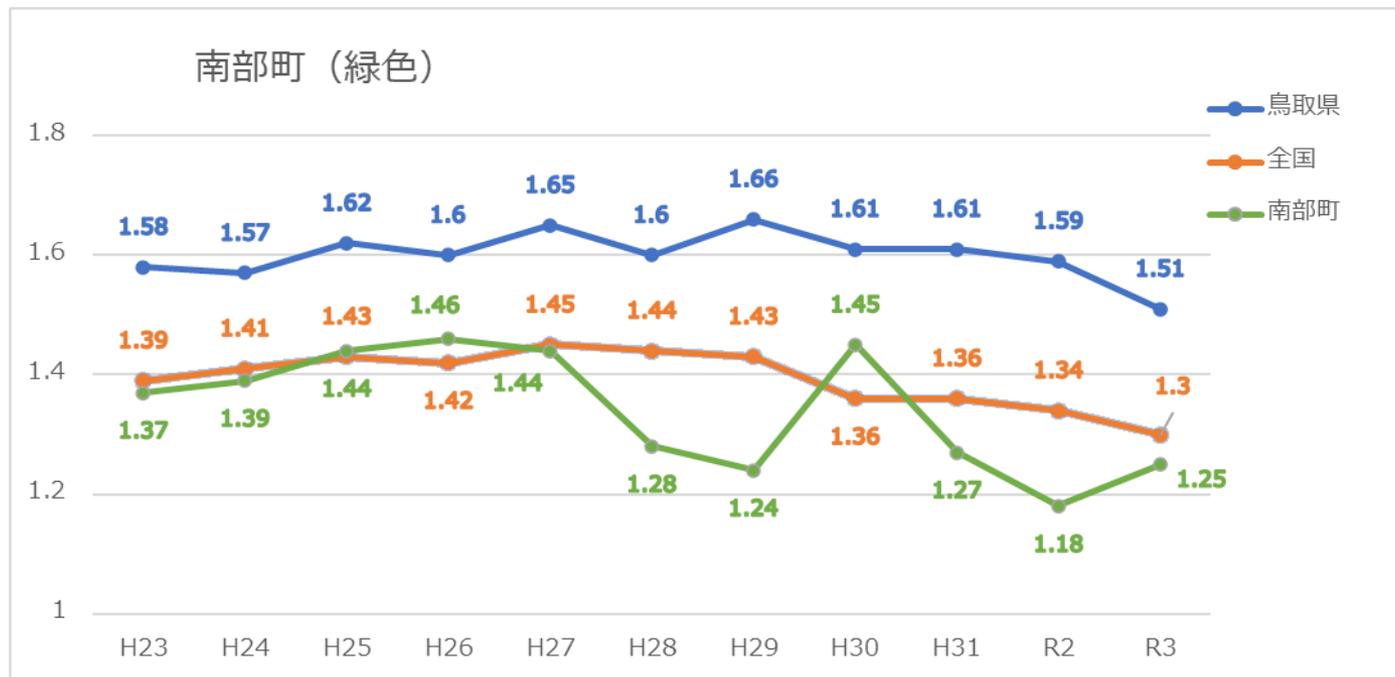


合計特殊出生率の推移

(全国・鳥取県・南部町の比較)

※15歳から49歳の女性の、年齢別出生率を合計した指標。一人の女性が平均して一生の間に何人の子供を産むかを表す。鳥取県は全国上位を維持している。

合計特殊出生率は、平成30年は4年ぶりに国平均を上回っている。その後、平成31年からは国平均を下回っている。



社会増減数（転出入超過数）の推移

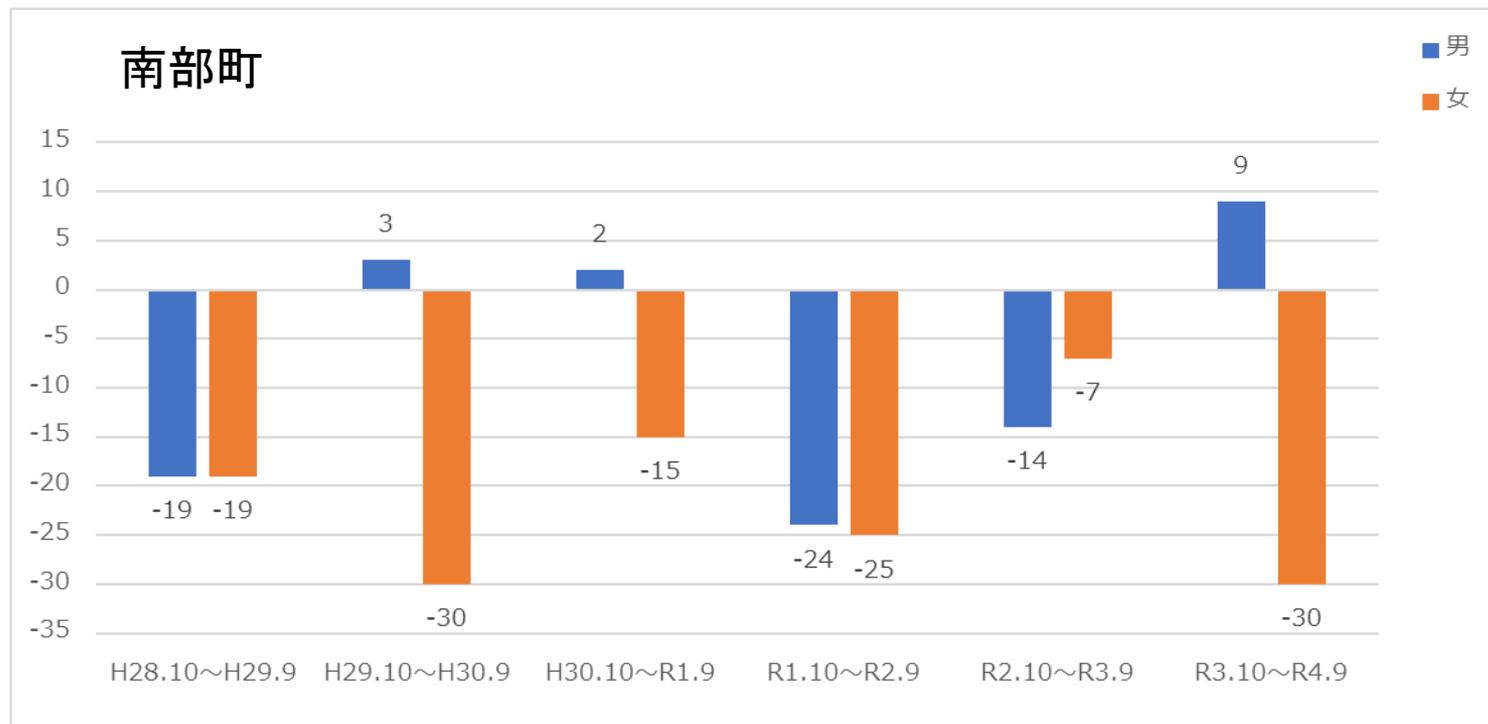
平成30年は障がい者施設が町外に移転し、入所者数の大半が転出したのが主な要因である。令和3年は5年ぶりに転入超過に転じた。



転入	262	288	318	319	286	289	264	215	291
転出	△300	△323	△339	△283	△288	△378	△286	△296	△265

社会増減数（転出入超過数）の推移

近年、20-29歳の社会増減数は、男性と比較して、女性の減少幅が大きくなっている。

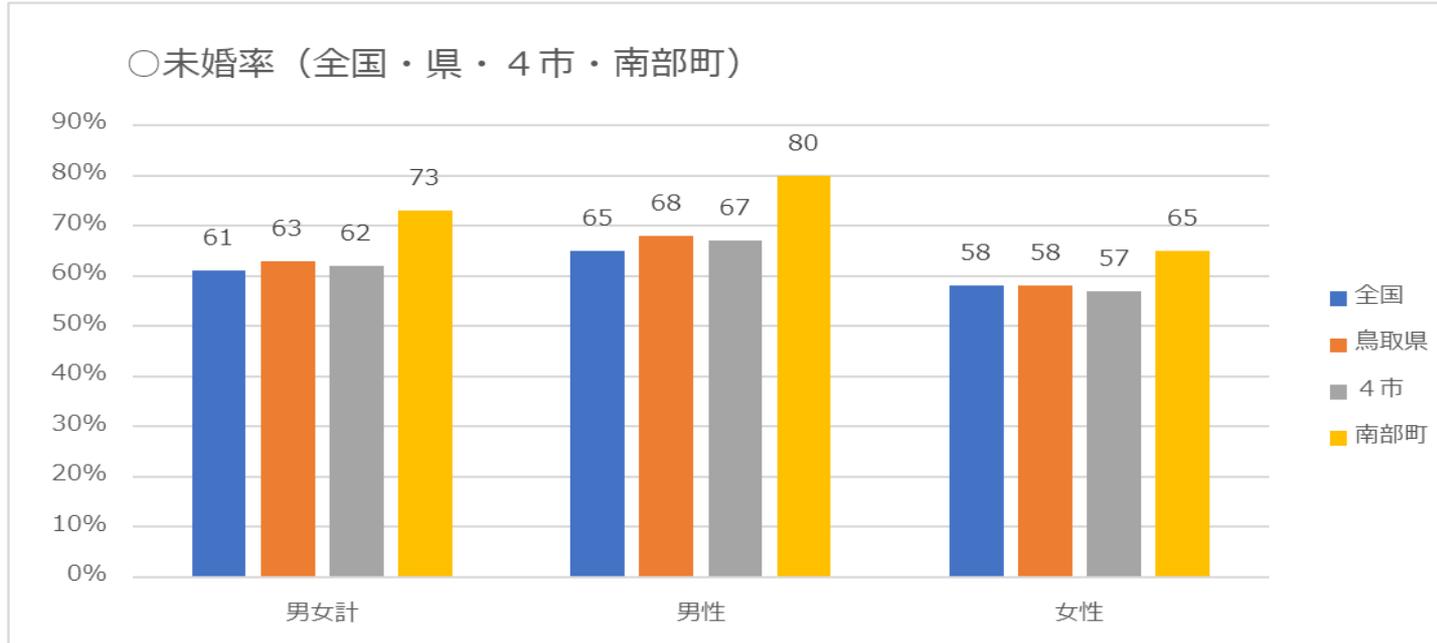


	43	36	54	41	65	46	38	30	36	41	57	28
転入												
転出	△62	△55	△51	△71	△63	△61	△62	△59	△50	△48	△48	△58

未婚率・婚姻率

- 県より25～29歳の男女の未婚率が高い（下図：2020年国勢調査より）
- 婚姻率が低い2.05%（人口千対） ※県3.86%、国4.3%（直近データより）
→晩婚化の傾向が見られる。 ※1%（パーミル） = 1/1000

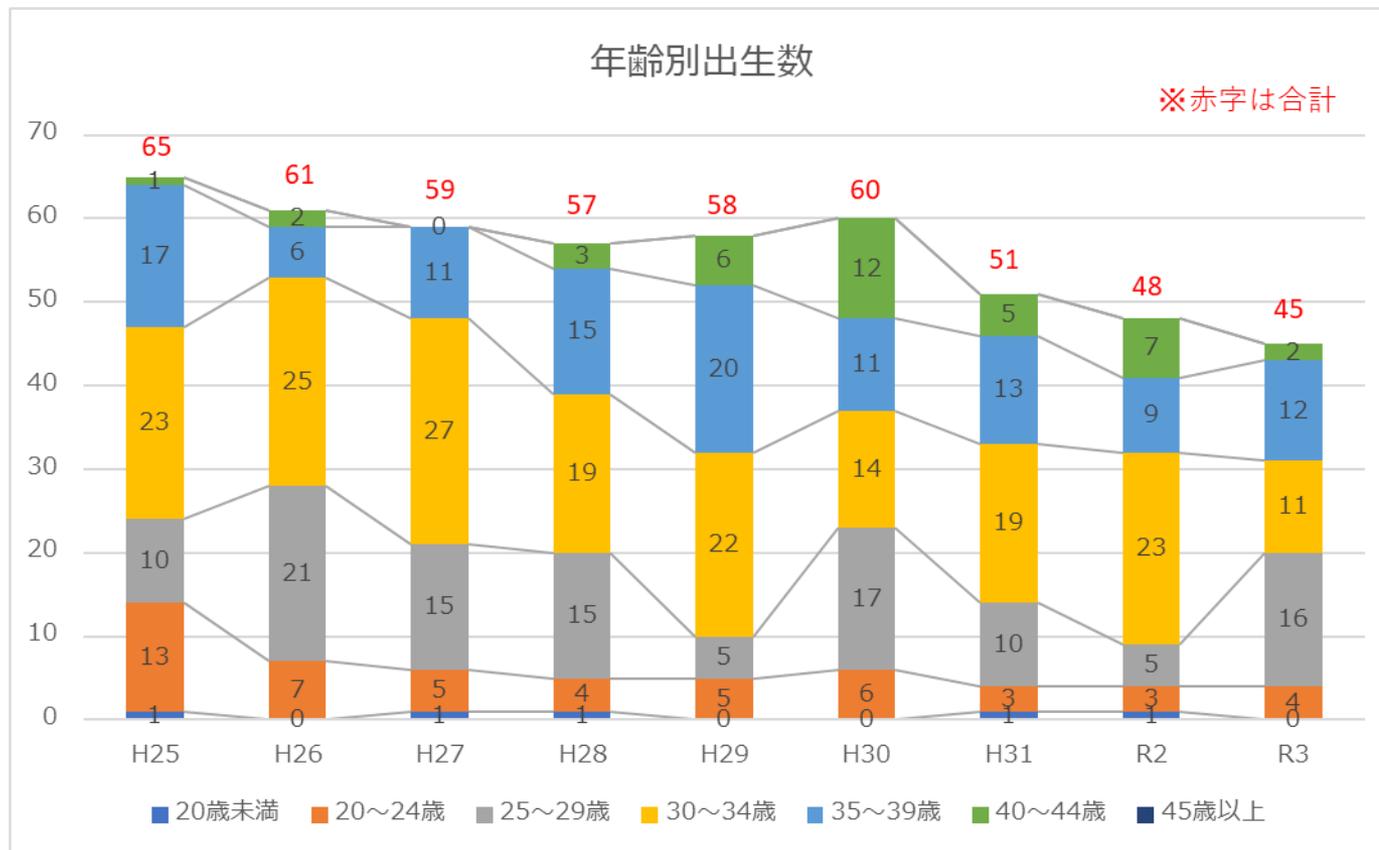
○未婚率(全国・県・4市・南部町)



(南部町) 男女計 237/321人 男性 180/223人 女性 112/175人 ※（未婚者数/回答者数）

年齢別出生数

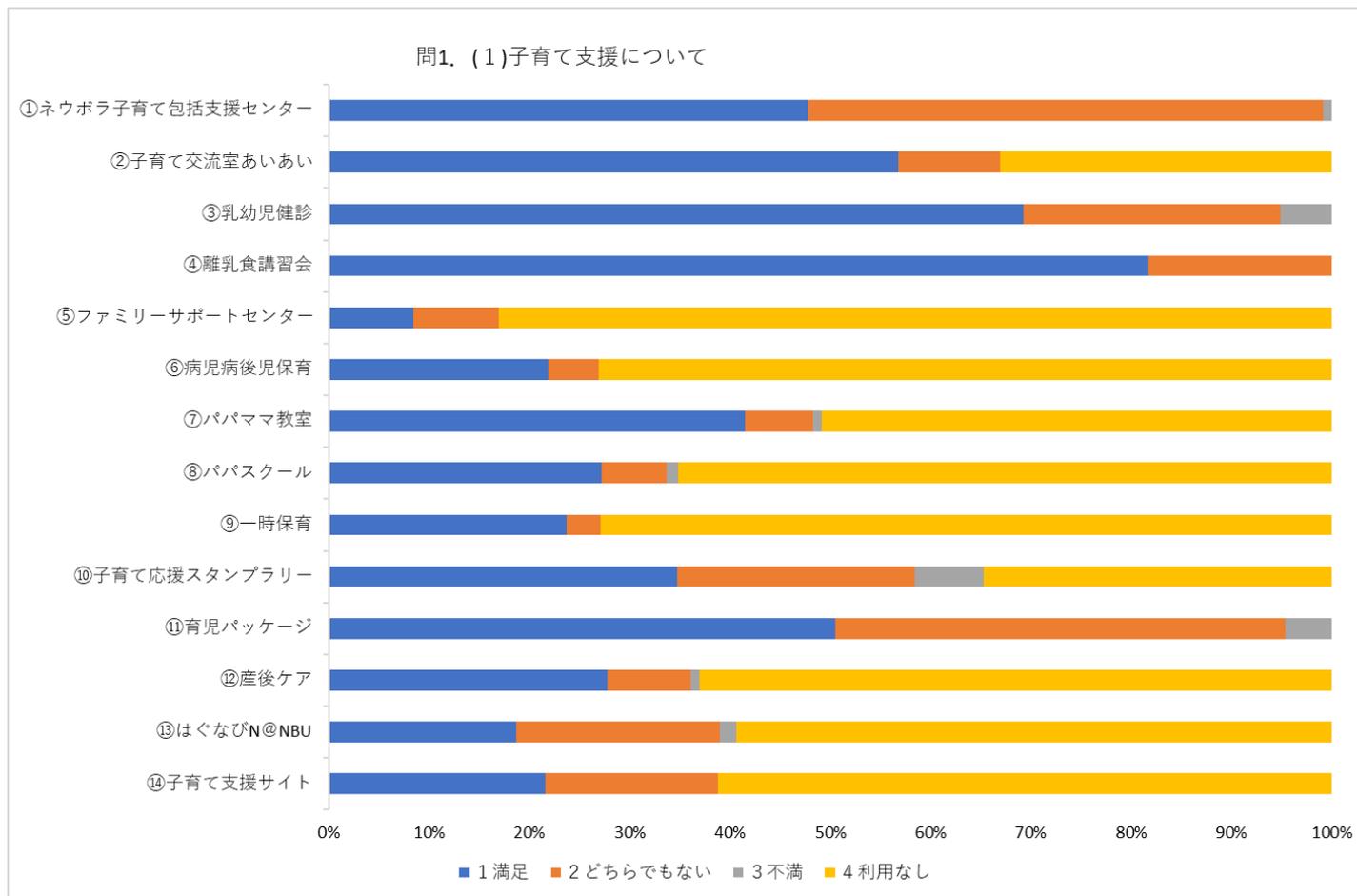
- 近年高齢出産（35歳以上）が増え、晩産化が続いていたが令和3年には20歳代の出産が増加した。



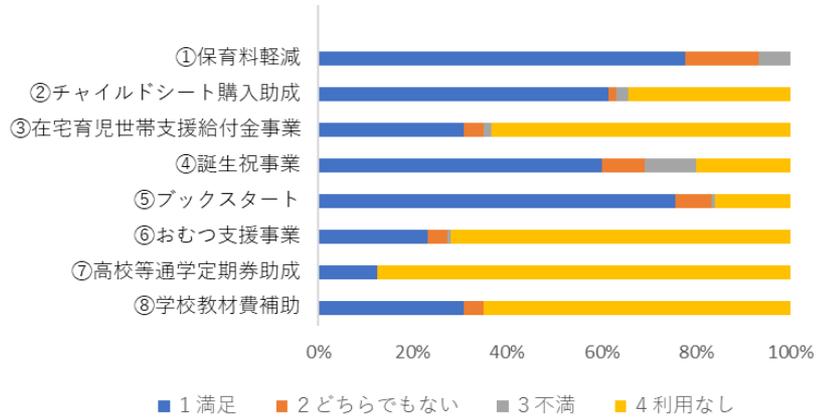
子育て環境や支援に関する満足度

※南部町の就学前のお子さんのいる世帯を対象にしたアンケート結果（南部町子育て施策満足度アンケート調査より抜粋）…令和5年度に実施、228世帯中122世帯が回答。

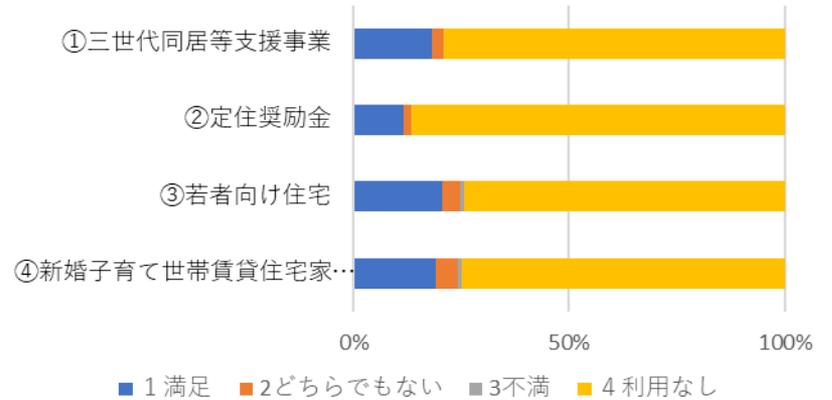
「南部町の子育て施策の満足度は総合的に何%ですか」という問いに対し、70%以上と答えた世帯が6割以上となった。



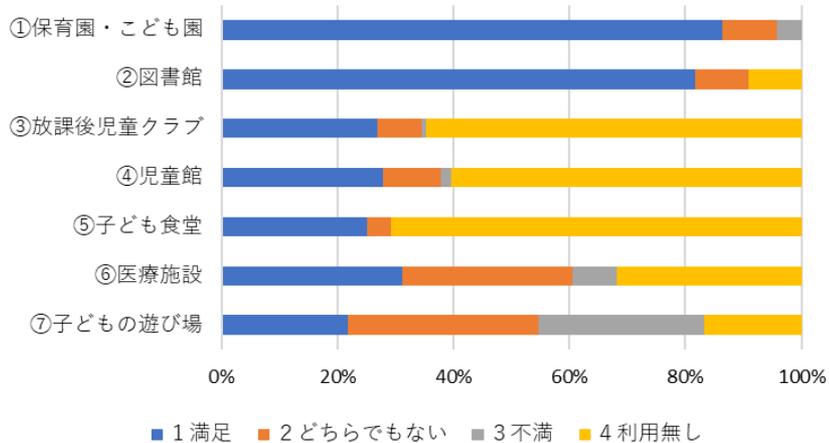
(2)各種助成について



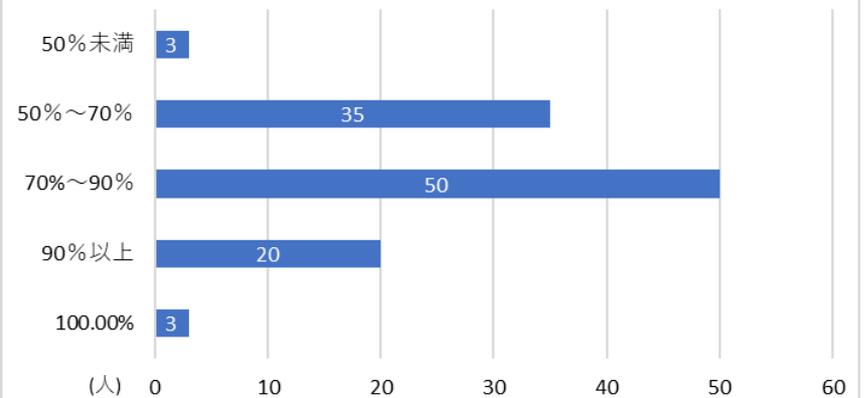
(3)住まいに関することについて



(4)施設・環境について



問2.南部町の子育て施策の満足度は総合的に何%ですか



総括

【人口】

- 出生後の児童数は、小学校入学時に増加する傾向が見られる。
- 合計特殊出生率は、平成23年以降県平均を下回っているが、国平均を上回る年も見られる。出生率は晩婚化晩産化、若い女性の流出が主な要因である。

【当事者】

- この度のアンケートを踏まえ、各種サービスの充足感や満足度は向上している。

【転入者・町外者】

- 「子育て支援が充実している町」として定着してきている。

部会総括

- 若い女性や新婚世帯を対象とした移住定住施策を推進していく。
- 出会いの場を提供し、結婚に対する支援を強化していく必要がある。
- 引き続き、家庭・子育てと仕事を両立しやすい環境づくりをさらに充実させる。

第4期少子化対策プロジェクト（R5～R7）へ向けて

【目的】 子どもが健やかに育つ環境づくり

【方針】

- **地域との協働**
- **家庭・子育てと仕事を両立しやすい環境**

【目標】（3年後）

- **婚姻率3.8‰（人口千対） ※県並み**
- **合計特殊出生率1.51人 ※県並み**
- **出生数55人 ※平成30年度並み**

第4期少子化対策プロジェクト（R5～R7）へ向けて

事業名		内容
新規	乳児紙おむつ支援事業	乳児へ紙おむつとの交換チケットを配布。対面式でお渡しする。 面談回数を増やし、困りごとを解消できるよう保護者が気軽に相談できる窓口を目指す。
新規	結婚支援事業	令和5年度より鳥取県の運営するマッチングシステム「えんトリー」の登録・更新料を全額負担する。
拡充	結婚新生活引越支援金支給事業	令和4年度から新設。対象者に引越費用(上限30万円～60万円)を補助する。
拡充	誕生祝い事業	令和3年4月以降に出生した満1歳、及び満3歳の誕生日をお祝いする。満1歳の誕生祝いとして、防災に利用する物品及び町内で生産された米またはフルーツ。満3歳の誕生祝いとして、町内観光施設の利用体験。
拡充	ファミリーサポート事業	既存のファミリーサポート事業にプラスしてネウボラニーズに応える。(依頼会員の利用料無料・援助会員への謝金1,000円・子どもの預かり場所を平日はあいあいで行う)
拡充	子どもの広場事業	第2期親子の小さな公園(0歳～2歳児向け)整備。既存の広場の管理やイベントを実施する。